



ほつとするね
緑の府中

指導室だより

第 79 号

編集・発行 府中市教育委員会教育部指導室
〒183-8703 府中市宮西町2-24
電話 042-335-4063



府中市学校教育プラン21と 本校の取り組み

府中市立府中第二小学校

校長 小島 茂

平成15年度から平成25年度までの、11年間にわたる府中市の教育全体計画である「府中市学校教育プラン21」は、平成21年度から第3期の事業実施計画に入った。

計画は、学校教育だけでなく、教育委員会の取り組みや地域への訴え、保護者への啓発を含む全体構造になっている。

今回は、府中市教育プラン21に基づき推進している本校の取り組みの一端を紹介する。

「環境問題への取り組み」の中で（環境教育の推進）と（学校の緑化）が取り組み項目となっている。本校では、府中市内のNPOの協力をいただき、春と秋に花の苗を植え、一年中美しい花が見られる取り組みをしてきた。平成21年度には、それに加えてへ校庭の芝生化を実施した。

校庭の芝生化は、東京都の方針でもあり、府中市の方針でもある。学校として取り組むのは、

行政の支援をいただきながら、保護者や地域との合意形成を図ることが出発点になる。

府中市で初めての取り組みになるので、まず校庭芝生化のメリットと課題を明らかにすること、そして関係者にその内容を理解していただいた上で、本校で芝生化するには、全面芝生化なのか、一部芝生化なのかという検討に入った。学校は、地域の共有財産であり、土曜日も日曜日も校庭を使用する団体がある。当然関係団体の全部に集まっていただいて意見を聞き、方向性を定める会を積み重ねた。

はじめは疑問がたくさん出た。本校は、27学級で900名を超える児童がいる規模の大きい学校である。当然、生き物である芝の消耗が激しいことになる。また、4階建ての校舎が南側にあり、冬至の前後2ヶ月ほどは校庭の一部が日陰になり、芝にとっては厳しい環境になる。また、土曜日・日曜日・祝日に全

て校庭が使用されている実態がある。困難は予想されたが、子供たちへのよりよい環境作りをすすめること、そしてヒートアイランド現象対策としても、地球環境への対策としても役立つことを考え、校庭の芝生化をすすめることになった。

次に6月下旬から8月いっぱい

の工事期間中の、休み時間の遊び場の確保、そして土曜日・日曜日の少年サッカーと少年野球団体の練習場所の確保が課題になった。これは、関係者の努力で乗り切った。

9月1日に、全校児童が芝生の上に立って二期の始業式をすることが出来た。子供たちには、すぐに変化が現れた。今までより多くの児童が芝生の校庭で遊ぶようになった。はだしになる子、側転やブリッジをして遊んでいる子、車座になっておしゃべりを楽しむ子が見られるようになった。校庭の芝生化に

よって、「柔軟性を中心に運動能力の向上」と、「環境教育に活用すること」を想定していた。しかし、最初に効果を実感したのは、子供たちの情緒的な安定が見られることだった。もう一つ、近隣の方からは、砂ぼこりが減って洗濯物が干せるようになったとうかがった。近隣の方に喜んでいただけことが良かったと思うとともに、今までご苦労をおかけしてきたことに思い至り、感謝の念がわいた。

だが、校庭を使用していると部分的にすり切れてくる。芝生の養生をどうするか手探りの対応が始まった。本校の極めて心強い力であるPTAが中心となって「グリーンキーパー」が立ち上がったが、22年4月から学校とボランティアで芝生の管理をすすめることになる。芝生の校庭を維持する挑戦は、始まったばかりである。



芝生化された校庭



平成22年度
教育・巡回相談員

特別支援相談室④「教育相談」

平成21年度を振り返って

～教育相談室活動報告～

教育相談員

刈屋 奈央

◆はじめに

教育相談室は、府中市内に在住・在学している幼児、小・中・高校生と、その保護者を対象として、子供の心理・発達に関する心配事や悩みについての相談に応じている。

教育相談の活動は、大きく『来室相談』と『電話相談』の二つから成る。このうち、来室相談は予約制となっており、原則として保護者からの申込みで相談を受け付けている。保護者に対してはカウンセリングを、子供に対してはカウンセリングやプレイセラピー（遊戯療法）を行い、問題の解決をともに目指している。

ここでは、来室相談における21年度の活動を振り返り、報告をしたい。

◆21年度の相談実施状況

昨年度の教育相談室は、教育相談員（心理士）11名、電話相談員（教職経験者）2名の計13名体制で運営した。年間の相談

表1 相談件数

	相談件数
21年度	396件
20年度	360件
19年度	351件
18年度	376件
17年度	340件

実施状況は、表1、表2のとおりである。

来室相談の相談件数は、ここ数年増加の傾向にあり、特に21年度は、前年度よりも30件以上の増加が見られたことが特徴的である。教育相談員が、市内の小学校を定期的に訪問する巡回相談を兼務していることから、教育相談室そのものを知ってもらう機会が増え、相談することへの敷居が低くなりつつあることが背景のひとつとして考えられる。また、来室相談を学校から勧められる相談者も多く、巡回相談と相まって、教育現場にも身近な心理相談の場として認識されてきているのではないだろうか。

主訴別では、例年と変わりなく、「不登校（登校しぶり）」「発達障害の疑い」「情緒不安定」の3つが相談件数の上位を占めている。21年度の特徴としては、「発達障害の疑い」が増加したことが挙げられる。これらの主だった主訴について、その傾向を述べる。

①不登校（登校しぶり）

毎年、特に中学生を中心として多く相談されるのが不登校である。不登校の背景は千差万別で、学習、人間関係、家庭環境、本人が持つ発達のアンバランスさなど様々あり、なお且つそ

表2 主訴分類別件数

主訴分類	20年度	21年度
不登校	111件 (30.8%)	119件 (30.1%)
発達障害の疑い	72件 (20.0%)	100件 (25.3%)
情緒不安定	54件 (15.0%)	46件 (11.6%)
しつけ・育て方	22件 (6.1%)	25件 (6.3%)
その他	101件 (28.0%)	106件 (26.8%)
合計	360件 (100%)	396件 (100%)

これらの問題が複合的に絡み合っている場合も少なくない。子供自身には来室するだけのエネルギーがなく、保護者だけ来室している事例もあるが、保護者の考え方が変化することで、子供にも変化が見られることもある。不登校に対しては、学校、スクールカウンセラー、適応指導教室等と連携し、多面的に支援をしていくことが求められるだろう。

②発達障害の疑い

昨今、急速に発達障害が注目されるようになり、情報として目に触れる機会が増えてきた。それに伴い、保護者自身が子供の発達の問題を念頭に置いて相

談に訪れることや、保育・教育現場から相談室を紹介されることも増えてきている。同時に、『気になる様子』を発達面に特化して捉えようとする傾向もうかがえる。発達の側面も考慮しつつ、環境・情緒面も含めた全体的理解をしていくことが、今後さらに重要となる。

③情緒不安定

情緒不安定は、一見すると発達障害のように思われる場合もあり、その要因としては多様なものが考えられる。特に、物理的にも心理的にも保護者に依存している年齢の子供であれば、家庭環境や身近な人間関係に影響されて、情緒不安定になることがある。子供自身の安定を図るとともに、子ども家庭支援センター等の機関と連携しながら、家族や家庭の機能回復を目指す支援も必要である。

◆おわりに

社会的な動向や、育児・教育環境の変化により、個々が抱える心配事や悩みもますます多様化してきている。これからの相談活動では、既存の概念にとらわれることなく、目の前の「悩みを抱えている人」それぞれを理解していくことが、より一層の課題となってくるだろう。

特別支援相談室⑤「巡回指導」
21年度の活動を振り返って
「一人一人の
ニーズに合わせた教育を」
巡回指導員 木村 ミチ子

よろしくお願ひいたします



1、はじめに

どの児童・生徒も勉強ができるようになりたい、友達と楽しく過ごせる様になりたいと願っ

ている。しかし、いろいろな課題をかかえ、思う様にはいかな
い児童・生徒が在籍している。
巡回指導は、その様な児童・
生徒に巡回指導員が学校に訪問
し支援している。

2、巡回指導実施要項

巡回指導の目的は通常の学級
に在籍する児童・生徒に対し、
一人一人の教育的ニーズに応じ
た特別な教育的支援を行うこと
により、個に応じた指導を充実
させることとしている。

指導の対象は、LD・ADHD
D・高機能自閉症等の発達障害
のある又はあると思われる児童
生徒である。また、発達障害以
外の特別な支援を要する児童・
生徒も対象としている。

対象者決定の手順は、保護者
と学校とが相談し、校内委員会
で検討し校長名で派遣要望書を
教育委員会に提出する。1校5
名を上限として教育委員会が決
定し学校長に通知する。

指導に当たっては、1年間の
到達目標を保護者・学校・指導
員で十分検討し明確にしておく
必要がある。

3、指導員の実態

巡回指導員は、7人で1校5
名以内の児童・生徒を担当し、
指導にあたった。

ア. 担任・コーディネーターと
の連携

・ 支援を始める前に、対象児童・
生徒の様子を聞き、理解を図っ
た。

・ 休み時間を利用して、短時間で
も、その日の様子を報告した。

イ. 学習の支援

・ 当該学年の教科学習の補充の
ほか、つまづいている学習に週
り、個に応じた指導を行った。

行動面に課題がある児童・生徒
には声掛けを工夫し、ソーシャ
ルスキルやコミュニケーション
能力を高める指導をした。

学習を通して達成感をもたせ、
自信や将来の自立につながる支
援を心がけた。

ウ. 学級担任とのかわり

・ 学級担任と協力し、指導法等
について相談し合った。

エ. 就学相談・教育相談との連
携

相談に訪れる児童・生徒や、
保護者の様子を聞き、いろいろ
な角度から共通理解につとめた。

また、学校の校内委員会に、巡
回相談員と共に構成メンバーの
一員として参加し、支援の必要
な子供についての情報交換をし、
指導法や対処法、必要な措置に
ついて話し合った。

4、巡回指導の事例

障害のタイプにより問題の課

題は違うが、指導の教科は国語
算数を主とし、各教科にわたる。
指導の形態は個別指導か一斉
指導における支援指導、または
これらの併用である。

ア. 九九が覚えられない
(短期記憶の弱さに関係すると
考えられる)

・ 「九九のうた」や「7×5は
七五三の語ろ合わせ」等で興味
を持たせ覚えさせる。
・ 百マス計算の導入。
・ 九九表を持たせる等の方法。

イ. 割算に意欲的に取り組む
例えば、「わり算すころく」

①すころく表にランダムに数字
を書きこむ(2けた或は3けた)
②1〜13までのトランプを13枚
用意する。

③ 「ばばぬき」方式で1枚ぬく。
④最初のスタート位置に書いて
ある数字をトランプの数でわっ
てあまりの数だけ進める。
⑤④を進んだ場所を繰り返す。
⑥早く「あがり」についた人が
勝ちになる。

ウ. 漢字を覚えるのが苦手
・ 漢字の要素である形、読み方
意味の3種類のカードを作り、
漢字当てクイズをする。

①絵を見て漢字を当てる。
②絵を見て漢字を書く。
③漢字を見て読み方を当てる。
ゲーム感覚で楽しみながら漢
字を覚えられる指導法である。

エ. 体育・図工・音楽が苦手
感覚・運動機能の発達の偏り
からくるものと考えられている。
感覚・運動機能を高めるため
楽しんで身体を動かすこと。

手先の器用さを高めるため、
折り紙、粘土、手芸、木工等の
指導が望ましい。音楽は、優し
く歌ったり、優しくリコーダー
を吹かせたりする。

5、今後の課題

この1年間の活動を振り返る
と、支援の効果があらわれ、学
校で評価されてきている。

巡回指導に対する期待が年々
高まり対象児童・生徒の希望数
が増加する傾向にある。

支援目標達成のため、引き続
き次の様な課題を追求していく
必要がある。
・ 発達障害に対する児童・生徒
理解を深め、適切な指導を行う。
・ 学校との緊密な連携を図る。
・ 教材教具を工夫する。

・ 個別指導計画作成に協力する。
・ 対象児童6名以上を要望して
きた学校に対し優先順位をつけ
5名のみ受け入れてきた。
巡回指導を受けられなかった
児童・生徒に対するフォローを
どうするか課題である。

わが校の特色ある教育 No.43

一 考えを深めるための基礎・基本の充実一

～言語活動を生かして～

情報をつかみ、自分の考えを整理し、表現できる子の育成

府中市立府中第七小学校 研究主任 千葉 理恵子

1 はじめに

本校では、平成21・22年度の府中市教育委員会研究協力校として、研究主題を「考えを深めるための基礎・基本の充実」、副主題を「言語活動を生かして」とし、「学習活動は、すべて言語を基に行われるものである。」という考えのもと、全教科・全領域で言語活動を取り入れた研究を進めている。

昨年度の全教員による指導案作りや実践を通しての成果や課題をふまえて、今年度は、学習の目的に迫るためにどんな言語活動をとり入れることが効果的であるか考え、実践による検証を行い、2月4日には、この2年間の研究の成果をまとめ、発表をする予定である。

2 研究の内容

- (1) 学習会
- (2) 調査研究
- (3) 基礎研究
- (4) 授業研究
- (5) まとめ

★基礎研究について

☆基礎研究のねらい
日常的な活動（話すこと・聞くこと、書くこと、読むこと、活用すること）、全教科・全領域を通して言語力を高める。

☆基礎研究の方法

育てたい子供像「情報をつかみ、自分の考えを整理し、表現できる子」の育成のもと、日常的な活動で低・中・高学年で目指す言語力を設定し、実践する。



七小 漢字検定

☆目指す言語力

低学年…言葉に興味をもち、考えや気持ちを表現する力

中学年…聞いたり調べたりして、考えをまとめ、表現する力

高学年…他の考えを受けとめ、自分の考えを深め、表現する力

☆全校的な取り組み

①七小漢字検定

(方法) 二年生以上、年17回行う。

(内容) 学年別漢字配当表に示されている前学年の読み・書き・書き順の検定を自作問題で行う。

②音読カードの活用

(方法) 学年により目標を決め、毎日行う。家庭の確認印やコメントをもらい、家庭と連携する。

③読書指導

(方法) 毎週水曜、朝15分の読書タイムの設定、教師、ボランティアによる読み聞かせ、おすすめの本（読書郵便）、環境設定など。

④朝のスピーチ

(方法) 各学年により内容を決め、朝の会で行う。

(内容) 身近な出来事、テーマ（ことわざ、新聞記事、ニュースなど）を話す。

⑤聞いて、伝える場の設定

(朝会・集会で)
・ 学校長の質問に答えるために、図鑑や辞書で調べ伝える。
・ 委員会を取り組んできたことを全校児童に分かりやすく伝える。
(職員室・事務室・保健室で)
・ 要点を正確に伝える。
・ 正しい言葉遣いで話す。

4年 言語活動を生かした図工の授業



3 研究の充実に向けて

教師が言語活動を生かした授業を実践する中で、全教科・全領域で意識的に言語活動を取り入れるようになってきている。しかし、学習の目的に迫るためにどの単元にどんな言語活動を取り入れることが効果的であるかを考え、さらに、授業を工夫していく必要がある。

また、基礎研究の上に、授業改善をすることにより、子供たちが課題に主体的に取り組み、考え、判断し、表現する力を高めていきたい。

平成22年度 就学相談員



平成22年度 けやき教室指導員



よろしくお願いたします

「小・中学生科学教室」と「子どもサイエンススクール」が開講

平成22年度の府中市教育委員会主催の科学教育事業「小・中学生科学教室」と「子どもサイエンススクール」が5月から始まった。

この事業は、市内在住の児童・生徒に対して科学教育の振興を図ることを趣旨とし、実験・観察を通して科学的な思考力や創造する能力を育成することをねらいとしている。

★「小学生科学教室」は、市内在住の小学校五・六年の児童50名を募集し、屋外での学習を中心に植物、動物、昆虫、岩石、野鳥について学習する。主な活動場所は多摩川の河川敷、多摩動物公園、東京農工大、府中郷土の森である。

大学の先生を初め、樹木医の先生、府中野鳥クラブの皆さん、元中学校の先生、小学校の先生、多摩動物公園の動物解説員の先生方を講師として、市内各小学校の先生方も加わってみんなで学習を支援している。

★「中学生科学教室」は、新学習指導要領への移行に伴い、内容と配列を見直した。

さらには、細胞分裂やDNAの抽出など指導方法を改善しつつ、新たな内容を取り入れた。

生命及び急速に進歩するバイオ・テクノロジーへの興味や関心を持たせたい願いからである。また、化学電池に加え、燃料電池や太陽電池など新素材を使った実験を取り入れた。エネルギー問題に対する科学技術の果たすべき役割についての認識を高めていきたいと考えている。

★「子どもサイエンススクール」は、小学校四・五・六年生約30名を対象で年10回実施する。そのうち2回は「親子サイエンススクール」として行う。

募集は、市の広報紙、広報「ふちゅう」で毎回その都度公募し、電話申し込みで先着30名が参加できる。「もの作り」をテーマにしていろいろな道具を使いガラス細工をしたり、べっこうアメや簡単な電池を作って物を動かしたりする。

【問い合わせ先】
府中市立教育センター3階
小・中学生科学教室
子どもサイエンススクール
電話(直通)
042-336-6800
担当 松浦・浅沼・清宮

【問い合わせ先】
府中市立教育センター3階
小・中学生科学教室
子どもサイエンススクール
電話(直通)
042-336-6800
担当 松浦・浅沼・清宮

小学生科学教室			中学生科学教室			子どもサイエンススクール		
回	日程	内容	回	日程	内容	回	日程	内容
1	5/15	春の樹木と野鳥の観察	1	5/15	天体の運動	1	5/29	ガラス細工Ⅰ (トンボ玉作り)
2	6/19	多摩川の自然事前学習	2	5/29	天文学習	2	6/12	ガラス細工Ⅱ (マドラー作り)
3	6/26	多摩川の自然観察①	3	6/19	動物の生態観察	3	7/3	炭電池作り
4	7/10	多摩川の自然事前学習	4	7/10	細胞の観察	4	7/17	ハンカチ染め 親子サイエンススクール
5	9/11	雑木林の生物観察	5	7/24	染色体観察DNA抽出	5	8/21	蒸気船作り
6	9/25	多摩川の自然観察②	6	9/11	振り子の運動	6	9/4	ホバークラフト作り
7	10/16	いろいろな動物の体	7	10/16	電流と磁界	7	10/9	金属の性質とキーホルダー作り
8	11/6	動物の観察	8	11/13	電磁誘導(1)	8	11/6	べっ甲アメ・カルメ焼き作り
9	1/15	国立科学博物館での探検学習	9	12/4	電磁誘導(2)	9	12/11	ゲルマニウムラジオ作り 親子サイエンススクール
10	2/5	冬の樹木と野鳥の観察	10	1/8	化学電池・燃料電池	10	1/15	不思議な色水・炎・カラーキャンドル作り

	日	曜	研修会・委員会等	会 場	研 修 内 容 等
6月研修会・委員会等予定	3	木	小学校英語活動推進委員会	教 育 セ ン タ ー	全体会・分科会
	4	金	I C T活用推進委員会	教 育 セ ン タ ー	全体会
	4	金	学校図書館推進委員会	教 育 セ ン タ ー	全体会
	7	月	食育推進委員会	教 育 セ ン タ ー	全体会・分科会
	10	木	教務主任会	教 育 セ ン タ ー	全体会・分科会
	11	金	人権教育推進委員会	教 育 セ ン タ ー	全体会・分科会
	14	月	生活指導主任会	教 育 セ ン タ ー	全体会・分科会
	15	火	初任者等研修	学 校	参観・協議
	15	火	進路指導主任会	教 育 セ ン タ ー	全体会
	18	金	環境教育推進委員会	教 育 セ ン タ ー	全体会・分科会
	18	金	特別支援教育コーディネーター研修	教 育 セ ン タ ー	全体会
	24	木	幼稚園教育推進委員会	教 育 セ ン タ ー	全体会



いよいよ本年度から、府中第三小学校、府中第四小学校の2校で、セカンドスクールの試行が、府中市八ヶ岳山荘を拠点に、4泊5日の日程で行われる。

学校教育プラン21では「児童・生徒は、自然や社会に直接的に触れ、驚き、感動する中で、感性を豊かにしながら、自然や社会とのかかわり方をさらには自分の生き方を学んでいきます。(略) 社会生活の中での体験は、子供たちにとって成長の糧であり、生きる力をはぐくむ基盤となります。」と体験活動の推進の方向性を示している。

三十数年前私自身、小学校6年生の時に6泊7日の野外宿泊の体験がある。はるか記憶の彼方の出来事であるが、雨の降る中を炊事用の薪拾いで歩き回ったこと、山中湖でドラム缶筏を創り筏に乗って浮かんだこ

からだで覚えたことは 忘れない

と、家に帰った時に自分がとても成長したような気持ちになったことを覚えている。

長期の宿泊体験活動は、日常生活の中で行われている社会性の育成や適切な人間関係の構築などについて効果的に指導が進められる状況がある。

寝食を共にすることで、人間関係の様々な課題や家庭の中で許されていたわがままな振る舞いを我慢する必要がでてくる。生活環境の違いや一定の人間関係の継続に、時には友人ともめたり、ホームシックになったりすることもある。

そして我慢を超越し、これを主体的に何とか乗り越えたとき、子供たちは確かな変容を遂げる。体で覚えたこと、心の奥で感じた感情は、どこに残っているものなのだ。はぐくまれた絆や協調性の意識は、すぐにはその効果が表れなくとも、将来に困難が生じた時に「人間力」の土台となり、知らず知らずのうちに生かされるものなのだろう。

(統括指導主事 金子 真吾)

学びの窓

府中のホタル復活を目指して

水と緑事業本部公園緑地課

自然保護係長 松本 健

ホタルは日本を代表する夏の風物詩と言われていたが、市内では、生息地周辺の宅地開発や水質汚濁などにより昭和35年頃に姿を消したといわれている。

府中市緑の活動推進委員会が、自然環境復活のシンボルとして、ホタル養殖場において、ホタル復活への地道な活動を続けた成果が実を結び、昨年6月には、ホタルが10数匹見られるほどになった。

今年4月には南町小学校、南町西部自治会、府中市緑の活動推進委員会で組織する「府中ホタルの会」を発足し、ホタルが自然に生息できるよう良好な自然環境の復活を目指し、府中のホタル復活に対する本格的な取り組みを開始することになった。ホタル養殖を通じて、市民の自然環境保護の意識がさらに高まることを期待する。

絶滅してしまったホタルを自然の状態の中で復活させることは予想以上に困難なことであり、今後も地道で息の長い活動をしていく必要がある。学校教育の場において、自然環境を守る取り組みとして、ホタルを学習課題

として取り上げてみるのはいかがでしょうか。

あとがき

論語に「礼の用は和を貴しとなす」の言葉がある。「礼は人の和をもたらす。それが貴重なのだ。」という意味だ。例えば、朝起きて、「おはよう」と、あいさつをする。それによって和が生まれる。簡単なことだが、これが、人間関係を円滑にする第一歩ではないだろうか▼これは、孔子の若い弟子である有子の言葉である。かれはさらに続けて「和を知りて和すれども礼をもってこれを節せざれば、また行われず」と言う。つまり、「和」するだけでなく、「礼」という折り目のない人間関係はうまくいかないと言うことだ▼礼は人の和をもたらすが、一方、和は礼によって保たれる。「礼」と「和」とは、どちらも欠かせない車の両輪と言うことだろう。礼の作用でもっとも大事なものは和であると言える▼規範意識の欠如が指摘されて久しい。家庭や学校で、あらためて、「礼」について考えることが必要ではないだろうか▼六月。近郊の水田では、田植えが始まる。米の収穫には、八十八もの手間が掛かると言われる。教育もしかり、愛に勝る手だてなし。(小澤 宏)